

令和5年度 全国学力・学習状況調査 葉山町の結果について（小・中学校）

葉山町教育委員会

目 次

1 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 集計児童・生徒及び学校数（葉山町立小・中学校関係）
- (4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

2 小学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
 - ア 全体の傾向
 - イ 国語
 - ウ 算数
- (2) 児童質問紙に関する調査の結果
 - ア 教科等に関わる内容について
 - イ 学びに向かう力に関わる内容について
（向上心・主体性・規範意識等）
 - ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について
 - エ ICTを活用した学習状況等について



3 中学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
 - ア 全体の傾向
 - イ 国語
 - ウ 数学
 - エ 英語
- (2) 生徒質問紙に関する調査の結果
 - ア 教科等に関わる内容について
 - イ 学びに向かう力に関わる内容について
（向上心・主体性・規範意識等）
 - ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について
 - エ ICTを活用した学習状況等について

1 調査の概要

令和5年4月18日に実施した「令和5年度 全国学力・学習状況調査」について、葉山町立小・中学校の児童・生徒の学力等の状況は、概ね次のとおりです。

(1) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ◇学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (出典：令和5年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領[文部科学省])

(2) 調査の方式 悉皆調査（対象は小学校第6学年、中学校第3学年）

- 【参考】
- *平成19年度～平成21年度：悉皆調査
 - *平成22年度～平成24年度：抽出調査（※平成23年度は震災で中止）
 - *平成25年度～令和5年度：悉皆調査（※令和2年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休校で中止）
 - *平成24年度から理科を追加。理科は3年に1度程度の実施。
 - *平成31年度（令和元年度）から英語を追加。英語は3年に1度程度の実施。

(3) 集計児童・生徒及び学校数(葉山町立小・中学校関係)

○集計児童・生徒数

※4月18日に調査を実施した児童・生徒数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	276	68,739	977,345
中学校	225	60,318	923,981

○集計学校数

※4月18日に調査を実施した公立学校数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	4	855	18,991
中学校	2	413	10,287

※児童・生徒数及び学校数ともに、小学校は特別支援学校小学部、義務教育学校(前期)、中学校は中等教育学校(前期)、特別支援学校中学部、義務教育学校(後期)を含む。

(4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

- 本調査の結果から読み取れることに関して、次のような点に留意する必要がある。
- ・令和5年度の実施教科は小学校が国語、算数の2教科、中学校が国語、数学、英語の3教科である。調査については、学習指導要領の全てを網羅するものではないことから、児童・生徒が身につけるべき学力の特定の一部分であること。
- ・年度により問題の質が異なるため、学力の向上・低下の傾向を正答率のみで容易に評価することは難しいこと。

(用語説明)

○国語、算数、数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの教科の平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。

○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答した児童・生徒数を全体の児童・生徒数で割った値の百分率。

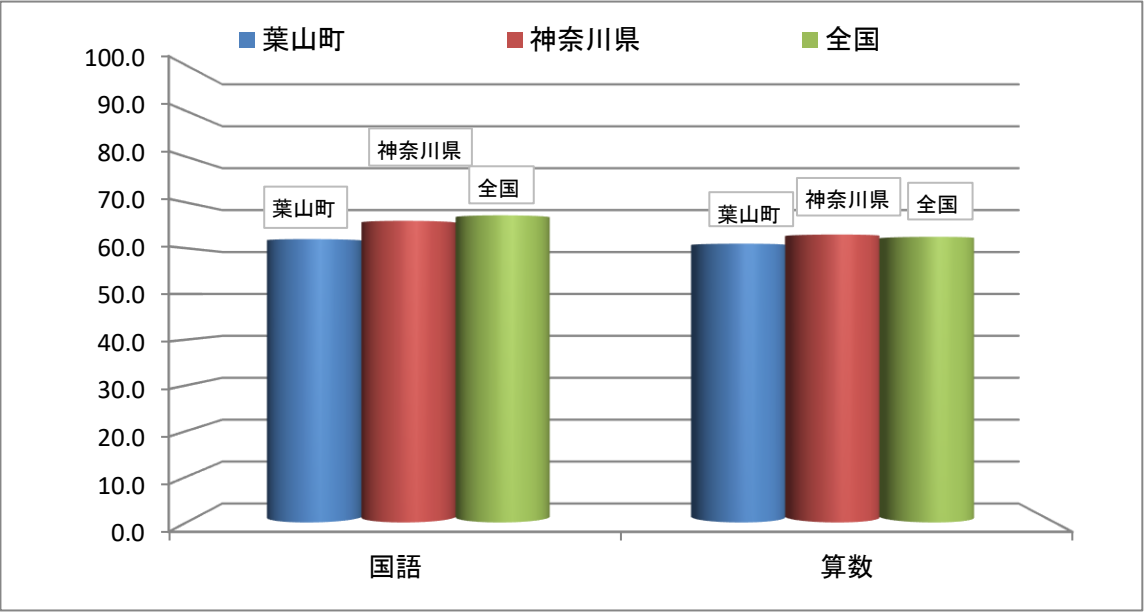
2 小学校に関する調査結果の概要

(1)教科に関する調査の結果

ア 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	62.0	66.0	67.2
算数	61.0	63.0	62.5



- ・ 国語の調査結果は、全国に比べ、平均正答率は5.2%下回っている。
- ・ 算数の調査結果は、全国・県の平均正答率約±5%の範囲内であるため、全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。

イ 国語

結果の概要	・ 「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域における多くの問題で、全国・県を下回っている。 ・ 「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」記述式の問題について、無解答率が26.8%であり、全国・県を上回っている。
話すこと 聞くこと	・ 「話すこと・聞くこと」のいずれの問題も、全国・県の平均正答率を下回っている。 ・ 「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる」選択式問題について、正答率が県の平均正答率を7.3%下回っている。
書くこと	・ 「書くこと」の問題は全国・県の平均正答率と同程度だが、無解答率は3～4%上回っている。 ・ 図表やグラフなどから、必要な情報をよみとり、よみとった情報をもとに自分の考えを文章で表現することに課題があると考えられる。
読むこと	・ 「読むこと」の問題について、いずれも全国・県の平均正答率を下回っており、無解答率が2倍近く上回っている。 ・ 「条件に合わせて、自分の取組を記述する」問題について、資料の内容や考えのみを書いていることが多く見られ、問題の主旨については言及した解答となっていない。
言葉の特徴や 使い方に 関する事項	・ 「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る」問題では、全国・県の平均正答率を5～7%下回っており、無解答率においては、全国・県を2倍近く上回っている。 ・ 「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」問題では、全国・県の平均正答率と同程度であるが、無解答率については、全国・県を10%程度上回っている。

今後の 取組の重点	○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。 ・ 情報の関係を様々な方法で理解することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるように指導する。 ・ 書いた文章の感想や意見を学校の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるなどの学習活動を充実させる。 ・ 必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できる文章になることを実感できるように指導する。 ・ 漢字の特徴を生かし、成り立ちや構造、「へん」や「つくり」の意味などを伝えながら指導する機会を増やすことが大切である。また、同音意義語や同じ「へん」や「つくり」の漢字を調べたり、比べたりさせながら意味や内容の違いを理解できるよう指導する。 ・ 児童が日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導する。 ・ 読む目的を意識することを促し、複数の本や資料（複数の情報）に書かれていることを比較し、関連付けながら読みを深めることを大切にする。また、文章を読んで理解したことの中に既習の知識や体験などと結び付くことはないかと、考えを深めながら読むよう指導していく。 ・ 必要な情報だと判断した語や文などにマーカーを引く等、視覚的に捉えることができるように指導する。必要だと判断した理由を児童同士で交流し、印を付けた語や文について再検討できるように指導する。 ・ 話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることを大切にする。インタビューをする際には、自分が知りたい内容に関する言葉を取り上げ、更に質問しながら理解を深めていくことが大切である。さらに、自分の考えと話し手の考えを比較し、自分の考えを深めていけるようにする。
--------------	---

ウ 算数

結果の概要	・ 特に図形の意味や性質について、自分の言葉で記述することに課題がみられる。
数と計算	・ 大部分の問題が、全国・県の平均正答率と同程度であるが、「(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段落の商の意味を考えることができるかどうかをみる」問題についておよそ8%全国・県を下回っている。 ・ 繰り返しの習熟だけでなく、これまで習得したことを関連させて考える問題に課題が見られる。
図形	・ 大部分の問題が、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題について無解答率が全国に比べ大幅に上回っている。
変化と関係	・ 「伴って変わる二つの数量の関係について考察する」問題について、全国・県と比べ、平均正答率は下回っている。 ・ 「百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる」問題について、平均正答率は全国と比べ同程度だったが、県と比べると下回っている。
データの活用	・ いずれの問題も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」問題については、他の問題に比べ無解答率が高い。
今後の 取組の重点	○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。 ・ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する際には、答えや計算の仕方だけを説明するのではなく、求め方について、表などを用いて変化の規則性を、具体的な数値を示し根拠を明らかにして説明できるようにすることが大切である。 ・ 三角形や平行四辺形の面積の公式について理解を深め、底辺の長さが等しい時、高さの具体的な長さが分からなくても、高さが等しいと分かれば三角形や平行四辺形の面積は等しいと、具体的に図形を切ったり動かしたりする等実感を伴って判断できるように指導することが大切である。 ・ 例えば除数の筆算が、被除数の66を60と6に分解して計算するという考え方に基づいていることを理解できるようにすることや、第1学年で学習した、十を単位とした数の見方や2位数の表し方に基づいていることを理解できるように指導することが大切である。 ・ 低学年時には、計算で数と具体物を結び付けて操作したり、考えたりする機会を十分に繰り返し行うようにすることが大切である。また、学年が上がっても常に具体物をイメージして処理したり考えたりする機会を設け、その数の意味するところを理解できるように指導する。 ・ 図を用いて、割合を捉えたり、基準量を自ら決めてそれに対する比較量を捉えたりできるよう指導することが大切である。

(2)児童質問紙に関する調査の結果

＜抽出項目について＞

「葉山町学びづくり研究推進事業」で取り組んでいる内容に深く関連している項目（「教科等」、「学びに向かう力」、「家庭学習・生活習慣」、「ICTの活用」）に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。なお、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、主に小・中共通の設問を抽出し分析しています。

ア 教科等に関わる内容について ※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	国語の勉強は好きですか	58.9	61.3	61.5
②	国語の勉強は大切だと思いますか	93.1	94.3	94.2
③	国語の授業の内容はよく分かりますか	87.1	85.8	85.7
④	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.1	92.8	92.8
⑤	算数の勉強は好きですか	57.0	61.3	61.4
⑥	算数の勉強は大切だと思いますか	92.7	93.8	94.2
⑦	算数の授業の内容はよく分かりますか	82.5	80.3	81.2
⑧	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	92.0	92.7	93.3
⑨	英語の勉強は好きですか	66.1	69.0	69.3
⑩	英語の勉強は大切だと思いますか	93.5	91.9	91.3
⑪	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	56.6	54.4	52.5
⑫	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	80.6	76.0	74.8
⑬	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	88.6	82.2	83.6
⑭	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	85.6	82.3	81.9
⑮	学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	94.7	95.3	95.1

成果と課題 及び 改善点	多くの児童が学ぶことの大切さを理解し、意欲をもって学習に取り組んでいることが推測される。多くの設問において全国・県と同様の回答率だった。国語や算数の勉強を好意的に感じている児童の割合は半数を超えていることが分かる。教科を好きになるためには、「わかる」「できる」授業を心がけることが大切である。インクルーシブ教育の視点を取り入れながら、全ての児童が楽しく、わかる、できるようにする授業づくりの工夫を心がけていきたい。 一方で、⑫・⑬の設問では、全国・県を上回る高い値を示している。「特別の教科 道徳」や「総合的な学習の時間」を校内研究の中心として取り組んで指導の工夫・改善に努めたり、話し合い活動や表現活動を重視したりしてきた成果であると推測される。
--------------------	--

イ 学びに向かう力に關わる内容について（向上心・主体性・規範意識等）

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか	89.4	83.5	83.5
②	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.7	88.9	89.8
③	将来の夢や目標を持っていますか	82.1	79.6	81.5
④	人が困っているときは、進んで助けていますか	94.3	91.3	91.6
⑤	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.4	95.7	95.9
⑥	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.0	96.7	96.9
⑦	学校に行くのは楽しいと思いますか	82.9	85.3	85.3
⑧	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	79.8	76.8	76.5
⑨	友達関係に満足していますか	90.5	89.8	90.3
⑩	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	76.4	76.5	76.8
⑪	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	86.7	80.0	78.8
⑫	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	75.6	67.4	63.7
⑬	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	82.9	75.5	74.4
⑭	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	88.6	82.1	81.8
⑮	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	81.4	76.5	77.4
⑯	解答時間は十分でしたか（国語） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	43.8	58.1	64.2
⑰	解答時間は十分でしたか（算数） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	79.7	85.5	84.5

成果と課題 及び 改善点	自己肯定感、規範意識、思いやりに関連する設問では全国・県よりも高い回答率を示している。特に①の設問ではおよそ6ポイント近く高い数値を示しており、素直に自分のよさを認められる児童が多いことがうかがわれる。今後も達成感や自己肯定感を感じることができるよう、学校生活のあらゆる場面で、一人ひとりが活躍できるような機会や場面、声掛けを意図的につくるようにしていきたい。また、学校に行くのが楽しい、人が困っている時は進んで助けている、人の役に立つ人間になりたいという設問では、全国と同程度の回答率を示しており、このような前向きな思いを児童がもち続けられるように認め、励ましていくことも大切である。 ⑪・⑫・⑬・⑭の回答率から、課題解決学習への日常的な取組のうえ、自分の考えが伝わるように工夫して発表したり、各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめ、深め、広げたりする活動によく取り組んでいることがわかる。一方、⑰の国語の解答時間については約半数の児童が不十分と回答しており、限られた時間の中で必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめて表現する力を育んでいけるようにしていきたい。
--------------------	---

ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	95.8	93.9	93.9
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	84.4	79.6	81.0
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	89.7	89.3	90.5
④	学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか ※（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。電子書籍の読書も含む）「30分以上」と回答した割合	38.2	37.8	37.3
⑤	読書は好きですか	70.3	69.7	71.8
⑥	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習も含む）	70.3	69.2	70.7
⑦	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合（学習塾・家庭教師・オンライン学習も含む）	47.8	55.8	58.1
⑧	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合（学習塾・家庭教師・オンライン学習も含む）	45.7	50.5	52.5
⑨	今住んでいる地域の行事に参加していますか	61.3	53.3	57.8

成果と課題 及び 改善点	本年度も昨年度に引き続き、朝食の喫食率や就寝・起床など、基本的な生活習慣については良い傾向を示している。家庭での学習については、引き続き計画的に取り組めるように学校と家庭との連携を図り、定着させていくことが大切である。 読書時間に関する設問では、全国・県と同程度の割合を示している。引き続き、各校における委員会活動やPTA活動の協力等による読書活動を推進していきたい。 また、⑨の設問においても全国・県を上回る値を示しており、行事やイベントを通して児童がのびのびと地域の人々の中で育っていることがうかがわれる。
--------------------	---

エ ICTを活用した学習状況等について

(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊び目的除く） ※「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」と回答した割合の合計	24.7	18.6	17.9
②a	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	84.8	68.5	62.4
②b	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合の合計	46.8	31.9	28.2
③	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか ※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計	94.7	95.3	95.1

成果と課題 及び 改善点	令和3度より、1人1台のタブレット端末の活用が本格的に始まったことにより、授業におけるICT機器の活用頻度が増している。特に②b設問について回答率が全国・県よりも大きく上回っており、授業中に調べる場面、友達と意見を交換する場面、発表する場面など様々な学習場面において、ICT機器の積極的な活用が図られていることがわかる。 引き続き、児童の資質・能力の育成のための一つの手立てとしてICTを効果的に活用、普及していきたい。
--------------------	---

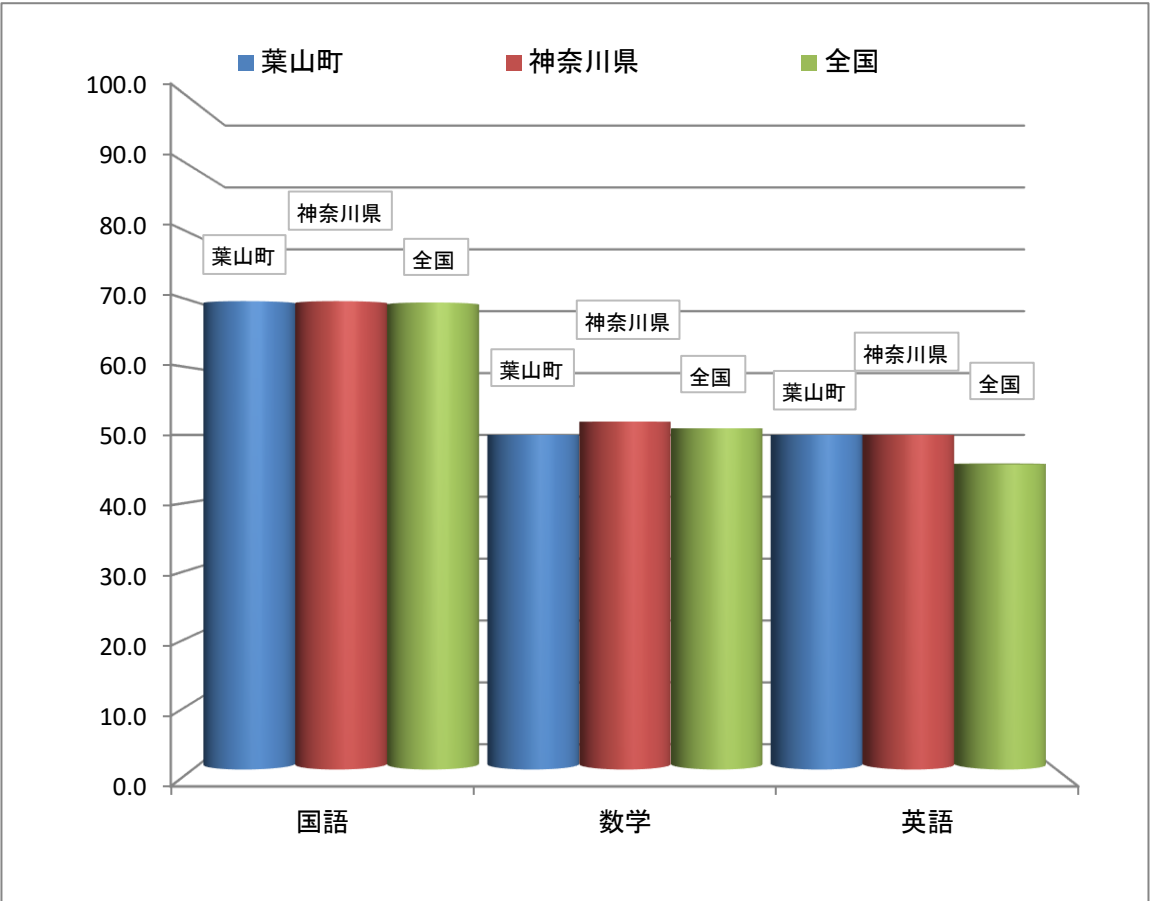
3 中学校に関する調査結果の概要

(1)教科に関する調査の結果

ア 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	70.0	70.0	69.8
数学	50.0	52.0	51.0
英語	50.0	50.0	45.6



・国語、数学、英語の調査結果ともに、全国・県の平均正答率±5%範囲内であるため、全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。

イ 国語

結果の概要	・どの領域においても、全国・県と同程度の正答率である。「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかをみる」問題では、全国・県の平均正答率より下回っており、無解答率は全国・県を上回っている。
話すこと 聞くこと	・「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題では、全国・県の平均正答率をおよそ4%上回っている。また「目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる」問題については、全国・県の平均正答率と同程度である。
書くこと	・「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」問題の平均正答率は、全国・県より上回っており、全国・県に比べ無解答率も低く、地道な指導の成果が現われていると考えられる。
読むこと	・大部分の問題の平均正答率は、全国・県の平均正答率に比べ上回っているが、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」問題については、5%近く全国・県に比べ下回っている。
言葉の特徴や 使い方に 関する事項	・昨年度と同様に「文脈に即して漢字を正しく書くことをみる」問題は、全国・県の平均正答率より下回っており課題があると考えられる。
情報の扱い方に 関する事項	・「『意見と根拠』『抽象や具体』など、情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」問題について、全国・県の平均正答率と同程度である。
我が国の 言語文化に 関する事項	・「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」問題について、全国・県の平均正答率と同程度である。

今後の 取組の重点	○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。 ・現代語で書かれた「竹取物語」と古典で書かれた「竹取物語」を比較して書く問題では、平均正答率が50%を下回り、無解答率がおよそ20%であった。生徒が古典の世界に親しむためには、中学生が楽しめるような現代語訳などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見出すことができるようにすることが重要である。その際、古典の原文と比較したり関係づけたりすることで古典の原文やその作品の世界に興味・関心が向かうように指導することが大切である。 ・聞いたことを基に自分の考えを文章で整理しまとめるには、話の内容を正確に理解することが必要である。その際、必要に応じて記録したり質問したりしながら聞くことが重要である。話し手に質問をする際に、目的や状況を意識した上で、質問の意図を伝えたり、適切な機会を捉えたりすることができるように指導する。日常生活のどの場面で活用されるかイメージをもつことが大切である。 ・漢字指導に十分な時間を割けない授業時間の中で、漢字の特徴を生かし、成り立ちや構造、「へん」、「つくり」の意味などを意識させたり調べさせたりしながら指導する。一つの漢字を学ぶときにも、同音異義語や同じ「へん」や「つくり」の漢字をまとめて調べる等、多角的な捉え方を身に付けることを大切にする。 ・文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには、自分がもっている知識や経験と結び付けることで、理解したことや考えたことを一層具体的で明確なものにしていくことが重要である。そのためには、生徒が主体的に文章を読むことができるように、1年間を見通して計画を立て指導することが大切である。
--------------	--

ウ 数学

結果の概要	令和3年度から学習指導要領に新設された「データの活用」の領域は、全国・県の平均正答率と同程度である。「ある事項が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」問題について、問題形式が記述式の中でも3割の無解答率となっており、未記入の生徒が多く見られる。
数と式	- 結論が成り立つことの前提を問題解決の過程や結果を振り返って考え、説明することに課題がある。 - 問題の条件に沿って数字をあてはめ、計算することができている。
図形	- 図形の記述式証明問題について、平均正答率が全国・県を下回っている。また、証明の記述はしているが、証明に誤りが含まれており誤答となった解答率が全国・県を上回っている。 「空間における平面が一つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ」問題では、平均正答率が低く課題がある。
関数	「反比例の意味を理解しているかどうかをみる」問題については、全国・県の平均正答率をおよそ10%下回っている。 「事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈すること」「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に記述式で説明すること」に課題がある。
データの活用	複数集団のデータ分布について傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題は、全国・県の平均正答率を下回っている。

今後の取組の重点	○課題の改善に向けて、次のような取組が考えられる。 - 空間図形の指導については、身の回りにある事象（例えば、カメラを固定する「一脚」は支えがないと安定して立たないが、「三脚」は支えがなくても安定して立つこと）を取り上げ、「三脚が、安定して立つことができるのはどうしてか」といった問題を設定し、その理由を考察する活動を設定することが考えられる。また、三脚の他にも、身の回りにある事象（三脚椅子、グランドピアノ等）を図形として捉え、見い出した点や直線などを基に平面が一つに決まる為の条件を考察することを通して、空間における平面について理解を深められるようにすることも大切である。 「数と式」の問題の趣旨について明確に捉えるために、具体的な数を用いることができるように指導することが大切である。問題条件を正しく捉えるために、具体的な整数を入れて計算結果を求める場面を設定することが大切である。 - 日常的な事象における数量の関係を一次関数とみなして問題解決することや、表、式、グラフを相互に関連付けて考察すること等、問題解決の過程を振り返り関数を活用することのよさを実感できるように工夫することが大切である。 - 解決された問題やその解決の過程を振り返り、条件を変えた場合についても関連付けて考えるなど、新たな問題を見出し解決する機会を設けることが大切である。 - データを収集して分析し、それを基に分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断するとともに、その理由について説明し合う場面を設定することが考えられる。その際、自分が判断した事柄とその根拠について、数学的な見方・考え方を用いて説明できるようにすることが大切である。
----------	---

エ 英語

結果の概要	どの領域についても、全国・県とほぼ同程度の平均正答率である。
聞くこと	「情報を正確に聞き取ることができることをみる」問題の平均正答率は、全国・県を上回っている。 - すべての問題について、無解答率は0%であった。
読むこと	「文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる」問題の平均正答率は、全国・県を大きく下回っている。 「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる」問題の平均正答率は全国・県を大きく上回っている。
話すこと [やり取り]	- 全国・県の平均正答率と同程度である。 「疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」問題の無解答率は、全国に比べ高かった。
話すこと [発表]	全国・県の平均正答率と同程度である。
書くこと	「未来表現 (be going to)の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる」問題は、全国・県を上回っているが、疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くかどうかをみる」問題は、全国・県を下回っている。 「日常的な話題について、事実や自分の考えを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」問題について課題がある。

今後の 取組の重点	○課題の改善に向けて、次のような取組が考えられる。 ・ 情報を正確に聞き取る為の手段の一つとして学習者デジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるように指導する。情報を正確に聞き取る為には、抱えている課題が「知識」の側面なのか、それとも「技能」の側面なのかを把握し、個々の課題に応じた支援をしていくことが大切である。 ・ 目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る為には、全てを聞き取ろうとするのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、自分が必要とする情報は何かを把握することが重要である。目的に応じて、必要な情報は何かをはっきりさせて、それらに関連する語句や表現に着目して聞き取ることができるように指導することが大切である。 ・ 短い文章から情報を正確に読み取るには、既習の語や文法等を活用して、文構造を適切に捉え、書かれている情報を読み取っていくことが重要である。 ・ 絵や写真、グラフなどを説明する英文を正確に読み取る為には、I またはYou以外の主語や無生物が主語になる英文を使って事実を伝える活動を行うことが大切である。 ・ 自分の思いや考えを相手に正確に伝える為の最低限の単語、表現などを身に付けることが大切である。その為、授業場面では自分の感想や思いを書いて伝えることを意識させることが必要である。 ・ 日常的な話題に関して、できるだけ身近な場面を設定するとともに、文の一語一語の意味をすべて理解する逐語的な読みから脱却し、自分が必要とする情報を読み取ることが大切である。その際、必要な情報と不要な情報を整理しながら読むといった指導も考えられる。
----------------------	---

(2)生徒質問紙に関する調査の結果

<抽出項目について>

「葉山町学びづくり研究推進事業」で取り組んでいる内容に深く関連している項目(「教科等」、「学びに向かう力」、「家庭学習・生活習慣」「ICTの活用」)に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。なお、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

ア 教科等に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	国語の勉強は好きですか	67.2	62.7	61.4
②	国語の勉強は大切だと思いますか	90.6	92.5	92.4
③	国語の授業の内容はよく分かりますか	80.2	81.7	80.0
④	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.7	89.2	88.7
⑤	数学の勉強は好きですか	57.4	58.0	56.7
⑥	数学の勉強は大切だと思いますか	79.8	84.0	85.0
⑦	数学の授業の内容はよく分かりますか	68.6	74.8	73.3
⑧	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	70.4	74.7	75.8
⑨	英語の勉強は好きですか	66.8	66.0	51.9
⑩	英語の勉強は大切だと思いますか	94.2	89.4	88.0
⑪	英語の授業の内容はよく分かりますか	82.0	68.3	63.9
⑫	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	95.5	89.1	87.5
⑬	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	52.0	42.8	36.7
⑭	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	91.5	84.3	86.3
⑮	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	82.5	85.0	72.6

課題と課題 及び 改善点	小学校同様、多くの生徒が学ぶことの大切さを理解し、意欲をもって学習に取り組んでいることが推測される。多くの設問において全国・県と同程度の回答率だったが、⑦・⑧の設問の回答率は全国・県より低い値となっている。学習意欲を高めるとともに探究心を育てていくためにも、授業において、日常生活に即した学習課題を設定したり、考えを表現し、伝え合う活動を意図的に設けたりしていくことが大切である。その際、自分の考えを伝えるだけではなく、友達の考えと比較して新たな考えを導き出したり、友達の考えを自分の言葉で説明したりできるように指導していくことも大切である。 一方、英語に関する設問では、全国・県を上回る値を示している。小学校で学んだ外国語をいかして中学校においても学びの活用に関する場面を取り入れた授業づくりに努めてきた成果であると推測される。
--------------------	---

イ 学びに向かう力に關わる内容について（向上心・主体性・規範意識等）

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか	79.4	79.3	80.0
②	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	84.8	86.8	87.3
③	将来の夢や目標を持っていますか	68.7	64.8	66.3
④	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	60.5	65.6	66.4
⑤	人が困っているときは、進んで助けていますか	88.3	87.7	88.1
⑥	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.0	91.3	94.6
⑦	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.0	94.9	95.5
⑧	学校に行くのは楽しいと思いますか	83.4	82.3	81.8
⑨	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	84.8	78.0	77.6
⑩	友達関係に満足していますか	89.3	88.3	88.7
⑪	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	65.5	60.8	63.9
⑫	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	87.9	80.4	79.2
⑬	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	74.0	73.8	74.9
⑭	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	79.8	70.8	69.1
⑮	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	84.3	78.0	79.7
⑯	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	74.9	69.7	69.2
⑰	解答時間は十分でしたか（国語） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	80.0	77.9	75.3
⑱	解答時間は十分でしたか（数学） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	79.1	78.7	75.0
⑲	解答時間は十分でしたか（英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	72.0	72.5	68.6
⑳	解答時間は十分でしたか（英語「話すこと」） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	44.6	48.0	45.5

成果と課題 及び 改善点	小中学校ともに⑨の設問に対する回答率が全国・県よりも高いことから、教員が意識的に児童生徒同士の意見交換を効果的に行う授業づくりを工夫した成果であると考えられる。④の設問の回答率が全国・県よりも低い値を示しているため、一人でも多くの生徒が、学校生活のあらゆる場面で、困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるような機会や仕組を意図的につくることが大切である。また、生徒一人ひとりを認め、自己肯定感を高めることで意欲の向上につなげていきたい。 昨年度に引き続き、⑪の設問の回答率が全国・県よりも高い値を示しており、日常より地域と連携してきた各中学校の取組の成果であると考えられる。今後も様々な教育活動において地域との連携を大切にしていきたい。また、⑫・⑭・⑮の設問も昨年度に続き、全国・県よりも高い値を示しており、日常的に課題解決学習に取り組み、表現活動や話し合い活動を重視してきた成果であると推測される。
--------------------	---

ウ 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	87.8	90.2	91.2
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	68.6	73.6	78.0
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	88.8	88.7	91.3
④	学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。電子辞書含む 「30分以上」と回答した割合	23.1	26.7	28.4
⑤	読書は好きですか	66.3	62.2	66.0
⑥	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	54.7	55.3	55.0
⑦	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合（学習塾で勉強している時間や家庭教師、オンライン活用学習含む）	68.6	72.5	65.8
⑧	土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合（学習塾で勉強している時間や家庭教師、オンライン活用学習含む）	44.5	46.3	40.0

成果と課題 及び 改善点	本年度は、昨年度に比べ、特に基本的な生活習慣の就寝時刻が全国・県を大きく下回っている。規則正しい生活習慣の大切さやを伝えていくことや家庭学習の取組は、引き続き学校と家庭との連携を図り、改善、定着させていくことが大切である。 ④・⑤の読書に関する設問では、読書好きな生徒が多いが、1日あたりの読書時間が県・全国を下回っていることが分かる。各校における引き続きの朝読書等の読書活動や、教科学習の中で生徒や教職員が積極的に本の紹介を行うなど読書活動を推進していくことが大切である。
--------------------	---

エ ICTを活用した学習状況等について

(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①a	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	99.5	89.7	87.5
①b	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合の合計	91.0	28.8	28.1
②	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	97.3	84.3	93.3
③	学校の授業時間以外に、普段（月曜～金曜）、1日あたりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか （遊びなどの目的に使う時間は除く）（1時間以上）	15.3	16.6	13.4

成果と課題 及び 改善点	令和3年度より1人1台のタブレット端末の活用が本格的に始まったことにより、授業におけるICT機器使用に関する今年度の回答率が昨年度と比較すると飛躍的に増加している。特に、①aの設問については昨年度より1%の増加だが、①bのとおり「ほぼ毎日」と回答した割合は全国・県よりも63%も上回っており、昨年度に比べると12%増加している。また、小学校同様、②の回答率が高く、中学校においても授業中に調べる場面、友達と意見を交換する場面、発表する場面など様々な学習場面において、ICT機器の積極的な活用が図られていることが分かる。 今後も、生徒の資質・能力の育成のための一つの手立てとしてICTを効果的に活用していきたい。
--------------------	---